

令和3年度 杉森高等学校 自己評価表(実施段階)

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
明るく和やかな校風を醸成する	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。教師は率先して挨拶を行う。 教師、生徒が一丸となって教育活動、学校生活を充実させる。	△ ○	・学校全体の教育力の強化 ・基礎学力補充の取り組みの工夫。 ・各部、学科、学年の連携強化 ・成年年齢引き下げに伴う、自己決定の機会の設定
節度ある身だしなみができるようになる	学年・学科が両輪となり、生徒指導部が統括することで指導方針・方法を統一する。 服装頭髪指導に関する規定を整備し、全職員・全生徒で共有・統一する。 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。	○ ○ ○	
生徒の基礎学力が身につくよう指導・支援を行う	コロナ禍の影響が最小限にとどまるよう学習支援を工夫する。 授業時間数の確保に努める。	○ ○	
	土曜日や7限目及び「基礎学力補充の取組」を活用して、学習習慣を身につける。	△	
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭やSDGs(持続可能な開発)をベースとした文化祭などの学校行事を充実させ帰属意識向上を図る。 様々な学校行事、学科行事を通して、生徒の出番を作り、自信を持たせる。	△ ○	・行事の精選 ・「新しい生活様式」に即した取り組みの工夫。
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	おもてなし委員会をとおして地域貢献活動を行う。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。 本校の専門学科、コースの特色を生かした地域貢献を行う。	○ ○ ○	
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 本校の歴史、建学の精神を学ぶ機会をつくる。	／ ／	
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブラーニング等、生徒が自主的能動的に活動する授業を目指す。 課外授業の充実を図る。	△ △ △	・継続的な課題である。 ・粘りつよい取り組みの継続。 ・授業改善の研究推進 ・観点別評価の研究
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。 授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。	△ △ △ △	
達成感を感じ自信をつける	合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。	△ △	
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	挨拶の励行、服装・容儀・頭髪を整えさせ、杉森生としての誇りを育む。 TPOに応じた言葉遣いや立ち居振る舞いができるように指導を行う。 新制服移行を機に正しい身だしなみを整えるとともに規範意識の向上につなげる。	○ △ △	・交通ルール指導の徹底。 ・言葉遣いや挨拶指導の徹底。
規範意識を身につける	学校内外においても校則や規定を遵守する意識を高める。 交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。	△ △	

5 その他の教育活動の活性化			
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切にできる指導を行う。	○	・教育相談委員会によるコーディネート機能の推進 ・クラブ活動加入率向上の工夫 ・コロナ禍における生徒会活動の工夫
自らの進路目標につながる修学意欲を継続する	教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。	△	
転退学防止に向けて、教育相談の充実と教育的配慮により、本校での学習継続を図る	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を実現できるように指導する。	○	
	個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。	○	
	教育相談委員会を効果的に機能させ、「気になる生徒」に対して早期に対応する。	○	
	専門教科、特に実習への不適應生徒に対しての配慮や教育活動の弾力的な運用を図る。	○	
クラブ活動を活性化する	学習継続が困難な生徒に対しては、別室学習、学習支援センター、NHK学園との併修などの活用を図る。	○	
	転退学防止について、さらなる対策を検討し、可能性を探る。	○	
生徒会活動を活性化する	クラブ活動の活性化を図る。(加入率70%を目指す。)	△	
コロナ禍の中で、安全で充実した学校生活を送る	対外試合の予告や結果報告等に掲示板を活用する。	△	
	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。	△	
	感染防止対策と保健指導に万全を期し、安全で充実した学校生活を送らせる。	○	
	「新しい生活様式」に基づいた、清潔で落ち着いた学校生活を送れるよう指導する。	○	
6 各学科の活性化			
(全学科をとおして)	コロナ禍において不足する実習や技能の習得の機会を最大限補充し、資格取得、進路保証を確実にする。	○	・自己の役割の自覚と資格取得に向けての早期の意識づけと知識の定着を図る工夫。 ・体験を取り入れた学習の推進
(食物科)	食の大切さを理解し、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。	○	
(看護科・看護専攻科)	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員を合格させる。	○	
(福祉科)	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員を合格させる。	○	
(普通科)	ファッションや医療技術への関心を高め進学・就職に対する強い意欲を持たせる。	○	
	豊かな感性を育むとともに、進学・就職に対応できるよう学力を高める。	○	
7 広報活動の活性化			
中学校や地域への発信を確実に 行う	中学校向け発行物やホームページをとおして教育活動を発信する。	△	・情報発信ツールの活用 ・WEB活用の推進と環境整備
	動画の活用等、コロナ禍における情報発信を工夫する。	○	
	中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。	△	
	地域の小学校とも連携を図り、広く本校を知ってもらう。	○	

令和4年度 杉森高等学校 自己評価表(計画段階)

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
明るく和やかな校風を醸成する	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。 教師、生徒が一丸となって教育活動、学校生活を充実させる。		
節度ある身だしなみができるようになる	学年・学科が両輪となり、生徒指導部が統括することで指導方針・方法を統一する。 高校生らしい頭髪・服装を自ら考え、実践する力を育成する。 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。		
生徒の基礎学力が身につくよう指導・支援を行う	I C Tの活用など、新しい生活様式に応じた学習支援を工夫する。 授業時間数の確保に努める。 土曜日や7限目及び「基礎学力補充の取組」を活用して、学習習慣を身につける。		
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭や文化祭などの学校行事を改善・充実させ帰属意識の向上を図る。 様々な学校行事、学科行事を通して、生徒の出番を作り、自己肯定感を高めさせる。		
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	地域の活動に積極的に参加する。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。 本校の専門学科、コースの特色を生かした地域貢献を行う。		
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 本校の歴史、建学の精神を学ぶ機会をつくる。		
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブラーニング等、生徒が自主的・能動的に活動する授業を目指す。 課外授業の充実を図る。		
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。 授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。		
達成感を感じ自信をつける	合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 観点別評価・意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。		
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	挨拶の励行、服装・容儀・頭髪を整えさせ、杉森生としての誇りを育む。 T P Oに応じた言葉遣いや立ち居振る舞いができるように指導を行う。 正しい身だしなみを整えるとともに規範意識の向上につなげる。		
規範意識を身につける	学校内外においても校則や規定を遵守する意識を高める。 交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。		

5 その他の教育活動の活性化	
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切に指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。
自らの進路目標につながる修学意欲を継続する	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を実現できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。
転退学防止に向けて、教育相談の充実と教育的配慮により、本校での学習継続を図る	教育相談委員会を効果的に機能させ、「気になる生徒」に対して早期に対応する。 専門教科、特に実習への不適応生徒に対しての配慮や教育活動の弾力的な運用を図る。 学習継続が困難な生徒に対しては、別室学習、学習支援センター、NHK学園との併修などの活用を図る。 転退学防止について、さらなる対策を検討し、可能性を探る。
クラブ活動を活性化する	クラブ活動の活性化を図る。(加入率70%を目指す。) 対外試合の予告や結果報告等に掲示板を活用する。
生徒会活動を活性化する	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。
コロナ禍の中で、安全で充実した学校生活を送る	感染防止対策と保健指導に万全を期し、安全で充実した学校生活を送らせる。 「新しい生活様式」に基づいた、清潔で落ち着いた学校生活を送れるよう指導する。
6 各学科の活性化	
(全学科をとおして)	コロナ禍における実習や技能の習得の機会を工夫し、資格取得、進路保証を確実にする。
(食物科)	食の大切さを理解し、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。
(看護科・看護専攻科)	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員を合格させる。
(福祉科)	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員を合格させる。
(普通科)	ファッションや医療技術への関心を高め進学・就職に対する強い意欲を持たせる。 豊かな感性を育むとともに、進学・就職に対応できるよう学力を高める。
7 広報活動の活性化	
中学校や地域への発信を確実に 行う	中学校向け発行物やホームページをとおして教育活動を発信する。 WEB活用を推進し、中学生の利便性を向上させる。 中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。 地域の小学校とも連携を図り、広く本校を知ってもらう。